

CITATION: Kavanagh J, Kelly AJ, Thomas J. *Cochrane Database of Systematic Reviews*
Cochrane Pregnancy and Childbirth Group, Issue 2. Art. No.: CD003100. DOI:
10.1002/14651858.CD003100.pub2
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 9 February 2006
Clib issue No.; N/U: 2006 Issue 2; Update

アブストラクト

背景: 分娩過程におけるステロイドの役割は十分に明らかになっていない。動物試験では、ヒツジの分娩誘発における胎仔副腎によるコルチゾル分泌の重要性が示されている。また、胎仔へのグルココルチコステロイド注入がヒツジの早産を誘発することも分かっている。これらの試験を踏まえて、ステロイドが妊婦の分娩誘発を促すものと仮定されている。本レビューは、標準化された方法による子宮頸管熟化および分娩誘発の方法に関する一連のレビューの一環である。

目的: 妊娠第3三半期の子宮頸管熟化または分娩誘発目的のステロイドの効果を、他の子宮頸管熟化または分娩誘発の方法と比較検討すること。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2005年12月)および関連論文の文献を検索した。この検索を2009年7月16日に更新し、その結果は分類待ち区分に追加した。

選択基準: 妊娠第3三半期の子宮頸管熟化または分娩誘発におけるステロイドの使用に関する臨床試験。

データ収集と分析: 分娩誘発に関する膨大で複雑な試験データに対処するために、データ抽出を2段階に分けるなどして対処した。試験の質を評価した。著者に連絡を取り、その後追加された情報を求めた。試験から有害作用に関する情報を収集した。

主な結果: 小規模試験1件(妊婦66例)のみを対象とした。主要アウトカムである24時間以内の経膣出産は報告されなかった。ステロイド筋肉内投与とオキシトシン静脈内投与の併用には、オキシトシン単剤に比べて効果はみられなかった。

ただし、本試験の規模が小さいことを踏まえると、この結果は慎重に解釈すべきである。

レビューアの結論: 分娩誘発におけるステロイドの有効性は明確ではない。このような分娩誘発は一般的に用いられている方法ではないため、おそらくこの分野でさらに研究を進める必要がある。

[注: 本レビューの分類待ち区分に含まれている引用7件について評価すると、本レビューの結論が変わる可能性がある。]

平易な要約(Plain language summary)

子宮頸管熟化と分娩誘発におけるステロイド

分娩誘発におけるステロイドの役割ははっきりしていません。

翻訳公開日:2015年 1月 27日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。